

NUPRI NEWS

Nagano Urban Policy Research Institute

NPO法人
長野都市経営研究所

Vol.59

2019.APR.

NPO法人 長野都市経営研究所

発行日/2019年4月18日 (年4回)

発行/NPO法人 長野都市経営研究所 〒380-0834 長野市大字鶴賀御所町1289-1 丸本ビル2F TEL 026-235-7911 FAX 026-235-6166 http://www.nupri.or.jp E-mail : nupri@nupri.or.jp

NUPRI全体懇談会

地域に根ざしたNUPRIの活動で 厚みのある長野の魅力をお届け

平成31年2月28日 午後2時30分〜 長野ホテル犀北館にて開催



【全体懇談会 報告】

全体懇談会は、岩野事務局長の司会により進行。各部会・委員会の代表から、平成30年度の活動報告ならびに今年度の活動方針、現在進行中の活動内容について発表が行われました。

理事長あいさつ

■まちの活性化のため、

会員相互の力を結集して

市川浩一 理事長

会員の皆様には、お忙しいところお集まりいただき誠に感謝申し上げます。また、日頃よりNUPRIの活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

私は千曲市に住んでおりまして、東京出張の折には、しなの鉄道屋代駅から長野駅まで行き、そこから北陸新幹線で向かいます。朝一番の電車に乗るためにホームで待っていますと、発車メロディーの「県歌・信濃の国」が流れてきます。あれは、いいですね。



久しぶりに聞くと、胸に響くものがあります。この信濃の国の発車メロディーが初めて長野駅で披露されたのが4年前の1月。私もNUPRIの代表として来賓に招かれました。発車メロディーの実現にあたってNUPRIの働きかけがあったことは意義深く、改めて私どもの活動が町の活性化のために役立っていることを誇りに思いました。

今年度もさまざまな事業が展開・推進されることと思えます。魅力ある門前まち長野の認知度をさらに広めるため、皆様には引き続きご支援、ご尽力をいただきますようお願いしたいと思います。

去る2月28日、「NUPRI全体懇談会」が役員・会員あわせ47名の出席により開催されました。昨年は、「県歌・信濃の国」の制定から50周年を迎え、改めて信州の自然や文化、歴史、名勝などに関心が向けられた年でした。理事長の挨拶でも、新幹線長野駅の発着メロディーの実現に向けたNUPRIの活動を称える話があり、地域に貢献する会の役割を再確認する場となりました。

会員につきましては106社と増員された報告がなされ、最後に御来賓を代表して日本銀行松本支店・支店長の和田健治氏、長野市芸術館総支配人・山本克也氏よりご挨拶をいただきました。

続いて、日仏異文化研修講師でもあるビジネスコンサルタントのヴァンソン・藤井由実氏の講演会を開催。地方都市の市街地空洞化が叫ばれている日本において長野市も例外ではなく、さまざまな事例で紹介されたフランス地方都市の活性化策の話は、一般聴講者にとっても興味深く有意義な時間となりました。その後の懇親会でも、賑わい創出の方策などについて会員から熱心な質問が投げかけられました。

部会活動中間報告・ 2019年度方針発表

■観光母都市ながの部会

山城ブームに乗り観光資源を発掘

市村部会長

前年度に引き続き、「善光寺ゆかり隠れたるパワースポットめぐり」の一環として、善光寺の魅力を深掘りしていきます。また、今は山城がブームですが、川中島の戦いに直結する山城が長野市内には多く点在しているので、善光寺めぐりとともに幅広い観光客を呼び込み、コアなファン層を拡大していきたいと思えます。

近年、長野県のインバウンド客も右肩上がりで推移しており、近くの野沢温泉や志賀高原にも若者受けする洗練されたカフェなどの観光資源が発掘されています。その仕掛けや仕組みづくりを本会の活動にも生かしたいと、他市町村の行政や団体にも働きかけをしていきたいと考えています。



■花遊歩 ～牛に引かれて善光寺参り～

SNSでの発信も強力に

鈴木事務局次長

昨年9月6日・28日、10月4日にJR「大人休日倶楽部」とのコラボで、東京において「着物が似合う信州のシルク文化にふれる講座」を実施しました。おかげ様で定員30名を超える参加があり、大盛況のうちに終わりました。ところが、上田・長野・松本を巡るモニターツアーは定員が集まらず催行できませんでした。第7回の「花遊歩～牛に引かれて善光寺参り」はいつものように大勢の参加があったのですが、県外客をもっと呼び込みたいと考えていた私としては、消化不良だったかなと思います。課題としては、早めの開催告知とJRさんに頼らない独自の発信です。今後はフェイスブックなどのSNSも駆使して、県外のお客様にアピールしていく予定です。なお、今年度は10月19・20日に開催いたします。みなさまのご参加お待ちしております。



■ここ掘れ！長野調査隊

紅葉の時期にめぐった橋ツアー

竜野隊長

昨年10月31日に第8回「橋めぐりツアー」



を開催しました。県立歴史館の山浦学芸員のガイドにより、小田切ダム周辺の両郡橋やみすず橋、「信濃の国」にも歌われた久米路峽の久米路橋、善光寺地震の際にできたといわれる神秘的な湧池などを巡りました。今回の内容はまだ未定ですが、バスを利用したまち歩きなどを考えています。また催行が決まりましたらお知らせしますので、ぜひ皆様のご参加をお待ちしています。

■わいがやサロン

新たな企画もスタート！

岩野事務局長

「わいがやサロン」もすでに開催70回を迎え、長野の文化風土を育む場として大いに期



待しているところですが。また、この3月11日には、初の試みとして「早春のジャズナイト」を企画開催します。今後も皆様のご意見をどうかがいしながらか活発な活動を続けていきたいと考えています。

■新産業創出部会

農業従事者の後継者を育成

竹内部会長

私どもの「採れたて野菜市」のプロジェクトも早いもので今年13年目を迎えます。これは生産農家の新しい産業を育てようということ、表参道式番館のプロムナードで毎週月曜に開催しているものです。また、「りんごの木オーナー制度」は今年で20回目となり、昨年11月には収穫祭も行われて約80人の方にご参加いただき盛大に行われました。三水米の販売も好調です。今後も皆様のご協力を得て、後継者問題や技術の継承にも取り組んでいきたいと思っております。



■スポーツ振興活動部会
AC長野パルセイロ支援活動
スポーツでまちを元気に

鷲澤部会長

AC長野パルセイロは、昨年はずいぶん戦績で残念な結果となりました。新シリーズも始まり、横山雄次新監督のもとで優勝または昇格という可能性に賭けながら、AC長野パルセイロ・レディースとともにこれまで以上に応援体制を強めていきたいと思えます。10月から優勝戦線に食い込み、長野が盛り上がっていきけるように応援をよろしくお願いいたします。



■新会員のあいさつ

平成30年度は、(株)ゆう、(株)東芝長野支店、(株)原田建築、(株)TOMOTECH、ミツワヤンマー(株)、矢木コーポレーション(株)の6社が新しく会員に加わり、昨年度の103社から106社になりました。

日本銀行松本支店・支店長の和田健治氏、
長野市芸術館総支配人・山本克也氏よりご挨拶をいただきました。

日本銀行松本支店・支店長

和田 健治氏



中国・北京での3年間の勤務を経て、信州に赴任しました。実は新人行員の時に松本支店に勤務しており、長野市も非常に思い出深い土地です。

NUPRIの活動で私が関心を持っている3つの事項があります。1つ目は、インバウンド。私の中国の友人は体験型の旅に興味のある方が多く、信州は実に最適な場所だと思います。また、2つ目に五輪後の跡地利用があります。北京も2022年に冬季オリンピックの開催を予定、競技会場などの跡地利用に頭を悩ませているところです。3つ目の関心事として、歴史があります。特に戦国時代が好きで、先ほどの山城の話は大変興味深く拝聴しました。私の中国での経験も踏まえて、お互いの得意分野を発揮しながら協力できることもあるかと思えます。ぜひよろしくお願いたします。

長野市芸術館総支配人

山本 克也氏



長野市芸術館は、この5月で開館4年目を迎えます。今年は長野市に開館した公共施設として、もう一度原点に戻って市民参加型の交流事業に取り組みたいと考えています。まず、長野は自然豊かで四季がはっきりしているのので、春夏秋冬ごとにシーズンプログラム・プロデューサー制を採用しました。

また、昨年6月から専属のジュニアコーラスの活動をスタート。小学2年生から高校3年生まで90人が所属する団体で、芸術館をホームグラウンドに子供たちの合唱活動を推進していきます。芸術館はこれまでクラシック音楽に偏った展開を行っていましたが、若い世代に気軽に来てもらえるような企画もたくさん用意しています。さらに若い方ばかりでなくシニア層の劇団も9月に旗揚げする予定です。市民の皆さんに身近な舞台芸術センターとして活動していきますので、ぜひご協力、ご支援いただければと思います。

NUPRI 講演会

地方都市の賑わいを

取り戻す最善策！

〜フランスの事例に学ぶ〜

ビジネスコンサルタント（日仏異文化研修講師） ヴァンソン 藤井由実氏

講演会は一般公開で行われ、NUPRI 会員のほか一般聴講者を含め150名が集まりました。地方都市の中心市街地空洞化対策が叫ばれている日本。フランスでも1980年代まで、その問題に直面していました。ところが今、フランスの地方都市は活気に満ち、魅力にあふれています。地方都市のまちづくりについて執筆活動を続けるヴァンソン藤井由実氏に、その解決策を豊富な事例を用いてお話しいただきました。

キーワードは歩行者を大切に
するまちづくり

今日は、私が暮らす人口15万人の地方都市・アンジェ市を例にご説明させていただきます。フランスでは全国の都市を対象に、毎年「住みやすい街ランキング」を実施しています。住民一人あたりの緑の面積、学校や病院の数などいくつかの指標から導き出すのですが、アンジェ市は過去6年のうち4度1位に輝いています。必ずしも大都市だけが快適で住み心地がよいわけではありません。人口調査では、毎年パリから地方都市や村落に人が転出し、この傾向は50年後も続くだろうと

いわれています。つまり東京のように一極集中ではなく、今フランスでは地方分散型の時期にシフトしているのです。

ただフランスも日本のように1980年代には出生率が1・85と低く、地方都市は疲弊していました。ところが今は出生率が回復し、元氣な地方都市が多い。なぜなのでしょうか。

まちの賑わいを創出するために、フランスが取り組んだことは都市空間の再編成でした。大都市でも地方都市でも、車道を歩行者空間へ転換する取り組みを進めています。また、人が密集する場所にある駐車場を撤廃し、歩行者空間に再編成しました。

たとえば、日本のまち中でちょっとひと休みしたい時、皆さんはどうするでしょうか。お金を払って、カフェなどに入ることが多いですね。ところがアンジェ市の中心市街地では駐車場の代わりに公共の空間や広場が整備されているので、人々はそこに座ってくつろぎます。季節になると業者がワインを運んできて市民にティスティングしてもらったり、広場がまちのシンボルとなって賑わいを創出しているのです。

キーワードは、歩行者を大切に
するまちづくりです。歩行者道が自動車道よりも道幅が広く、おしゃれなストッパーや花のプラントナーを置くことで不法駐車を防いでいま

【ヴァンソン藤井由実 (VINCENT-FUJII Yumi) 氏 プロフィール】

大阪出身。フランス国家教育省の「外国人へのフランス語教諭資格」を取得し、1980年代より、パリを中心に欧州各地に居住し通訳として活動。2003年からフランス政府労働局公認の社員教育講師として、民間企業や公的機関で「日仏異文化研修」を企画。著書に『トラムとにぎわいの地方都市・ストラスブールのまちづくり』（土木学会出版文化賞）、「フランスではなぜ子育て世代が地方に移住するのか」共著に『フランスの地方都市にはなぜシャッター通りがないのか』（ともに学芸出版社）。翻訳監修書に『ほんとうのフランスがわかる本』（在日フランス大使館推薦書・原書房）





大切に、そういう政策を積極的に打ち出しているのです。

安全で快適、輸送力も高い 路面電車を導入

では、車はどうするのだと皆さんもお考えのことと思います。私有車が市街地に入れないとなると、周辺に住んでいる人はどうしたらいいのか。フランスでは、多くの都市で一般にトラム（路面電車）と呼ばれるLRTを導入しました。実は、このLRTが発展している都市は、商店街のシャッター率が低いといわれています。公共交通が充実している地方都市は店も賑わっていて、これは数字にもはっきり表れています。

す。
今朝、長野の表参道を歩きましたが、駅から善光寺への道のりが歩きやすく、素晴らしい整備されていると感心しました。ただ、自転車道路の指定がないので、自転車があつちを走ったりこつちに行ったりと、危なっかしかったです。自転車専用レーンが設けられ、より快適になるのではないかと、また、歩行者空間をカラーリングするなど、ちよつと工夫するだけで歩きやすいまち並みになると思います。

さて、ヨーロッパでは中心市街地のゾーン30やゾーン20が主流になってきました。ゾーン20では、車道を人が歩いても歩行者が優先されます。そして、観光客が多いところには歩行者専用空間があり、車の姿は見られません。同時に自転車専用道路も整備されました。その結果、交通事故者の激減にもつながっています。人や自転車にやさしいまちは、観光しやすいまちです。逆に専用道がないようなところに観光に行っても歩きにくいし危ないし、イメージも良くない。フランスでは、何よりも人を

組んできました。他国とは違い、特別にフレンドリーな呼び名がつけられていますが、それは都市と一体化したデザインが義務づけられているから。ただの乗り物ではなく、ストーリーファニチャーとしてまちの景観づくりの一环として機能しているのです。バス停ひとつ取っても、インスタレーション・アートのようになり、ブランド化の取り組みが行われています。これからはますます増える外国人観光客に対応するためにも、ピクトグラムという絵文字標識も統一することが大切になってくるでしょう。

交通も福祉の一環として 都市政策を推進

今まで交通政策の話をしてきましたが、実はフランスでは交通は福祉であると捉えています。公共交通を都市予算が支えていて、現在35都市で路線バスが無料化されています。これはなぜかという点、浮いた交通費で買い物したり美術館や映画館などに足を運んでほしい。そうすることで中心市街地を活性化させたいというのが行政の考えなのです。日本の場合には民間業者が運営されているので、路線バスの運行を税金で支えるというのは違和感があるかもしれません。例えば、コミュニティバスと考えていただいたらわかりやすいでしょう。交通は福祉であり、中心市街地活性化や観光、子育て、すべてに関わってきます。

日本では、これからバス会社が半分になるといわれていて、地方都市はほとんど不便になってきます。やはり行政も市民の皆さんと一緒に公共交通を支えなければならぬ時代

に突入しているのです。

地方の自治体が主導権を握って、積極的にまちづくりに参加しているのもフランスの特徴です。都市計画マスタープランに基づいて、自治体が事業者に建築許可を発行、たとえばストラスブール市では、歩いて400m以内にバス停かトラムの停留所があるところにしか、建築許可を出しません。そうすることによって都市の空洞化を防いでいるのです。





さらに統一したまちづくりも推進しています。それぞれの都市にシンボルカラーがあり、都市計画で制定されたルールに合わない色の建物は建てられません。フランスへ行くとき各都市ごとに個性があつて一体感がありますが、それもこうした取り組みが行われているからです。長野の表参道も建物の高さがほぼ同じで色合いもシックで統一されていますね。こういうことをもっと広められたらより良いまちづくりができるのではないのでしょうか。

子育て中の女性をサポート 徹底した仕組みづくり

こういう話をさせていただくと、地方都市に公共交通を導入したからといって、それで人口が増えるわけではないといわれます。それは、当然そうなんです。地方創生は、いかに人口減少を防げるか、私は人口増加が何よりもカギになると考えています。

ヨーロッパ、特にフランスでは子育て中の女性が働きやすい生活環境づくりを進め

ています。それでは、どのように女性をサポートしているのか。私は4点セットと呼んでいます。①所得税の控除、②18歳までの子供手当、③待機児童への対策、④職場復帰の支援、この4つが行われています。

高学歴の女性は、仕事か子供かといわれると、家庭内の経済も考えてどうしても仕事を選んでしまう。労働法で女性が守られていない国、たとえばイタリアなどは出生率が高いへん低い。日本も高学歴の女性が多いので、女性が出産しても働きやすい環境を整えないと人口は増えません。地方都市が元気になるには、子育て中の家族にどんな移住してもらい人口を増やすこと。地方都市の賑わい創出に、それは避けて通れない課題なのです。

お金では買えないものを 求めてまちに出る

人がどんどん集まってくれような住みやすいまちの定義とは、何でしょうか。やはり人は、居心地の良い場所に集まります。

フランスの地方都市で、なぜ市街地に來るのかと質問すると、ただブラブラ散策しに來たと、それが楽しいという答えが返ってきました。また、若い人のなかには、ここに来たら朝市もあるし古本市もあるし、ミニイベントも開催されている。まちに來れば必ず何か刺激を受けるものがあるからと、サプライズを求めに來るそうなんです。今は、インターネットで家にいながら何でも手に入る時代ですが、そういう人たちの幸福感とはモノを買うことじゃない。まちに出て気の合う人と出会い、さまざまな体験をして、お金では買えないものを求めて來るのです。そうしてまちに出た時に、赤ちゃ

んのおむつを替える場所がない、子供の手を引いて歩くのも危ない、そんな場所には誰も訪れません。人が何を求めているのか、発想を転換することが必要になってきます。

人が訪れたいくなるようなまちには、都市の歴史を大切にしている独自の文化を尊重し、他の真似をしないという気風があります。長野の門前には120軒ほどの古民家があり、歴史ある空間をリノベーションして素敵な店づくりを行っているのを見させて頂きました。そういうふうには、よその真似をしないで自分たちの文化を大切にしている。昔と今は、つながっているんですね。また、伝統的なお祭りが盛んなところは若い人がUターンする率が高いそうです。お祭りというのは、コミュニティ、コミュニティは人とのつながりの場であり、住みやすさ、居心地の良さにもつながります。これからも市民の皆さん一体となって、住みやすいまち、魅力のあるまち、楽しいまちづくりを進めていただきたい。この会が、長野の新しいまちづくりを考える機会になればと願っております。

